

平成 24 年度 事業報告書

学校法人 熊本学園

I. 法人の概要

1. 設置者、設置学校及び所在地
2. 沿革
3. 組織
4. 各設置学校の入学定員・収容定員・学生数
5. 役員等
6. 教職員数
7. 関連する会社等

II. 事業の概要

熊本学園大学

1. 学生支援
2. 国際交流
3. 大学教育・研究の多様化
4. 入試広報対策
5. 地域社会との連携
6. その他の事業
7. 施設設備の充実

熊本学園大学附属高等学校

1. 生徒募集
2. 施設設備の拡充など
3. 教学(特色ある教育)・進学関係
4. 部活動関係
5. 国際交流の推進

熊本学園大学附属中学校

1. 生徒募集
2. 教学関係(特色ある教育ほか)
3. 部活動関係
4. 国際交流の推進

熊本学園大学附属敬愛幼稚園

1. 幼稚園運営
2. 保育内容
3. その他の保育事業

III. 財務（決算の概要）

平成 24 年度決算の概要

学校法人熊本学園は、平成 24 年度事業並びに財務の概要を、Ⅰ．法人の概要、Ⅱ．事業の概要、Ⅲ．財務（決算の概要）の 3 部に分けて事業報告書としてまとめました。事業の概要につきましては、設置校ごとにご報告いたします。また、その報告書は一般にも公開しております。

I. 法人の概要

1. 設置者、設置学校及び所在地

〔設置者〕 学校法人 熊本学園

〔本部の位置〕 熊本市中央区大江 2 丁目 5 番 1 号

〔設置学校〕

熊本学園大学 (〒862-8680 熊本市中央区大江 2 丁目 5 番 1 号)

熊本学園大学附属高等学校 (〒862-0971 熊本市中央区大江 2 丁目 5 番 1 号)

熊本学園大学附属中学校 (〒862-0971 熊本市中央区大江 2 丁目 1 番 2 1 号)

熊本学園大学附属敬愛幼稚園 (〒862-0971 熊本市中央区大江 2 丁目 1 番 6 1 号)

2. 沿革

昭和 17 年（1942 年）－ 東洋語学専門学校創立

昭和 20 年（1945 年）－ 熊本語学専門学校創立

昭和 25 年（1950 年）－ 熊本短期大学設立

昭和 29 年（1954 年）－ 熊本商科大学設立

昭和 31 年（1956 年）－ 熊本短期大学附属敬愛幼稚園設立

昭和 34 年（1959 年）－ 熊本商科大学附属高等学校設立

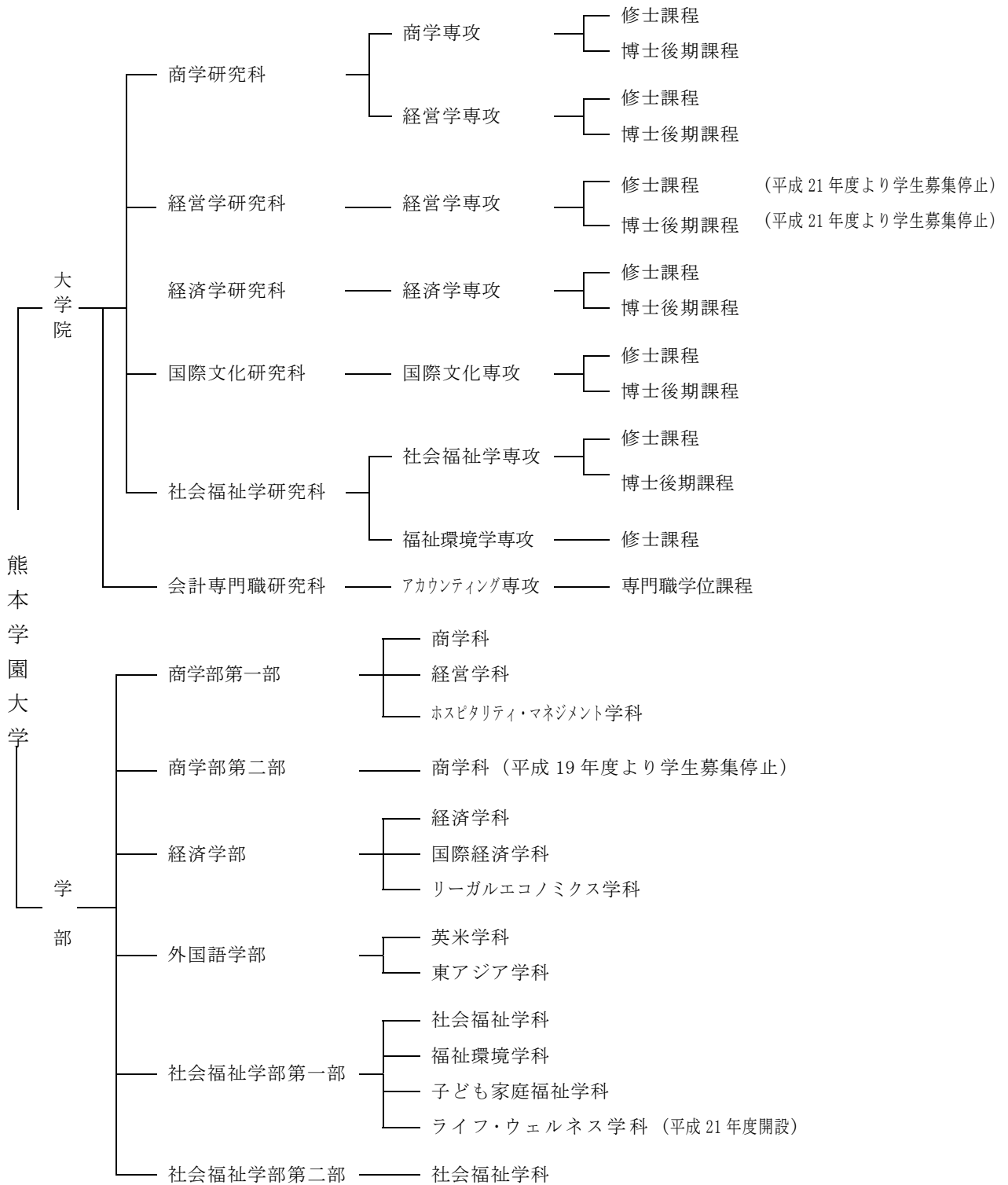
昭和 63 年（1988 年）－ 熊本商科大学大学院設置

平成 6 年（1994 年）－ 熊本商科大学から熊本学園大学に名称変更

平成 23 年（2011 年）－ 熊本学園大学附属中学校設立

3. 組織

熊本学園大学〔大学院・学部の組織〕



〔付属機関〕

- 図書館 熊本学園大学附属図書館
- 研究所 熊本学園大学附属産業経営研究所、熊本学園大学附属海外事情研究所、熊本学園大学附属社会福祉研究所
- センター 熊本学園大学 e-キャンパスセンター、熊本学園大学外国語研修センター、熊本学園大学体育施設センター、水俣学研究センター、水俣学現地研究センター

- 熊本学園大学附属高等学校 普通課 全日制課程
- 熊本学園大学附属中学校
- 熊本学園大学附属敬愛幼稚園

4. 各設置学校の入学定員・収容定員・学生数

〔設置する学校の名称及び入学定員と学生数〕

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

熊本学園大学

(人)

名 称		入学定員	収容定員	学生数
商学研究科商学専攻博士後期課程		3	9	5
商学研究科経営学専攻博士後期課程		3	9	1
経営学研究科経営学専攻博士後期課程 (平成 21 年度より学生募集停止)		—	—	1
経済学研究科経済学専攻博士後期課程		3	9	8
国際文化研究科国際文化専攻博士後期課程		3	9	5
社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士後期課程		3	9	21
大学院博士後期課程 計		15	45	41
商学研究科商学専攻修士課程		10	20	20
商学研究科経営学専攻修士課程		5	10	9
経営学研究科経営学専攻修士課程 (平成 21 年度より学生募集停止)		—	—	0
経済学研究科経済学専攻修士課程		10	20	24
国際文化研究科国際文化専攻修士課程		10	20	11
社会福祉学研究科	社会福祉学専攻修士課程	10	20	12
	福祉環境学専攻修士課程	10	20	9
大学院修士課程 計		55	110	85
会計専門職研究科アカウンティング専攻専門職学位課程		30	60	74
大学院専門職学位課程 計		30	60	74
商 学 部 第 一 部	商学科	220	880	990
	経営学科	150	600	700
	ホスピタリティ・マネジメント学科	80	320	354
	計	450	1,800	2,044
商 学 部 第 二 部	商学科 (平成 19 年度より学生募集停止)	—	—	10
	計	—	—	10
経 済 学 部	経済学科	200	800	1,005
	国際経済学科	100	400	436
	リーガルエコノミクス学科	80	320	363
	計	380	1,520	1,804
外 国 語 学 部	英米学科	115	460	521
	東アジア学科	50	200	250
	計	165	660	771
社会福祉学部 第 一 部	社会福祉学科	80	320	378
	福祉環境学科	80	320	323
	子ども家庭福祉学科	80	320	352
	ライフ・ウェルネス学科	80	320	369
	計	320	1,280	1,422
社会福祉学部 第 二 部	社会福祉学科	80	320	190
	計	80	320	190
学 部 計		1,395	5,580	6,241
総 計		1,495	5,795	6,441

熊本学園大学付属高等学校

(人)

名 称	入学定員	1年次	2年次	3年次	収容定員	生徒数
熊本学園大学 付属高等学校 普通科 全日制課程	360	385	376	402	1,080	1,163

熊本学園大学付属中学校

(人)

名 称	入学定員	1年次	2年次	3年次	収容定員	生徒数
熊本学園大学 付属中学校	80	56	82	—	160	138

熊本学園大学付属敬愛幼稚園

(人)

名 称	定員	年少組	年中組	年長組	園児数
熊本学園大学 付属敬愛幼稚園	140	40	51	52	143

5. 役員等

[役員]

(平成 25 年 3 月末現在)

理事長	岩野 茂道			
理事	(定員 10~17 名)	現員	16 名	
監事	(定員 3 名)	現員	3 名	
評議員	(定員 35~38 名)	現員	36 名	

6. 教職員数

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

熊本学園大学〈学長 岡本恵也〉

教員 専任	172 人	職員 専任	90 人
助手	2	再雇用	6
非常勤	326	嘱託	48
		臨時	43

熊本学園大学付属高等学校〈校長 木下 隆雄〉

教員 専任	49 人	職員 専任	9 人
常勤	2	再雇用	0
非常勤	28	嘱託	3
		臨時	2

熊本学園大学付属中学校〈校長 木下 隆雄〉

教員 専任	8 人	職員 専任	0 人
常勤	2	再雇用	0
非常勤	1	嘱託	2
		臨時	0

熊本学園大学付属敬愛幼稚園〈園長 宮里六郎〉

教員 専任	4 人	職員 臨時	1 人
特任	3		
非常勤	7		

7. 関連する会社等

(有) グリーンキャンパスの概要

資本金－500万円

住所－熊本市中央区大江2丁目5番1号（熊本学園大学内）

事業内容－福利厚生事業（飲食店経営、理髪店・旅行業・写真店などの委託及び販売業）

II. 事業の概要

平成 24 年度事業計画を策定する際に、熊本学園大学、熊本学園大学附属高等学校、熊本学園大学附属中学校、熊本学園大学附属敬愛幼稚園、それぞれに現状と課題を掲げ、重点目標を設定し取り組みました。特に予算編成の基本的考え方に財務の健全性を掲げ、積極的に経費削減に取り組みました。学校法人熊本学園として取り組んだ主要な事業は次の通りです。

1. 学校法人熊本学園創立 70 周年記念事業

平成 24 年 5 月 26 日に学校法人熊本学園創立 70 周年を祝う記念式典、ホームカミングデー、記念祝賀会を開催し、「師弟同行」、「自由闊達」、「全学一家」の建学の精神を礎として、真に地域社会へ貢献する、個性的私学教育の実現を目指すという姿勢をあらためて確認しました。地元熊本に根ざし、存在感のある教育研究機関として、さらにその役割を認識しながら使命を果たしていきます。また、熊本学園記念出版として伝記「近代熊本の巨人」を発行しました。

2. 募金事業

募金活動を本格化させました。事業内容を検討し一部変更しましたが、知識基盤社会に向けて教育の充実、施設設備の整備、奨学金制度等学生支援の充実、国際化に向けての対応などさらに充実した教育研究機関として、時代のニーズを踏まえ、一層魅力ある学園として整備に取り組んでいます。

《熊本学園大学》

平成 24 年度事業計画策定にあたって、財務の健全性、教育の質的充実、教育環境に配慮した施設設備の充実、そして学生支援の充実を掲げました。財務の健全性については、予算編成の段階で過去 3 年間の決算額平均値の 10%削減目標を掲げ、経費削減の徹底化を図り支出を抑えることができました。

しかし、依然として 18 歳人口の趨勢的逓減など大学を取り巻く環境は厳しく、学生確保は厳しい局面にあります。全国的に見ても大学への入学者数は、前年度より 7,500 人程度減少しています。人口動態からみても学生募集は厳しい状況にあり、これまでの入試のあり方を分析するなど方策を講じましたが、学事報告で示すとおり入学者を減らしました。全入の時代に入り、大学教育について本格的な議論と積極的な対策が求められ、さらに教育に対する信頼を確実なものにしていかなければなりません。それぞれに課題を抱えておりますが、一つに教育組織の再編であり、他学部在先駆けて経済学部の再編の準備を進めました。

また、安全で快適なキャンパスの提供を検討し、施設設備の老朽化に伴う改修工事と、特に快適な食空間の提供と合わせて女子学生に配慮した施設の改修工事を行いました。今後の大規模地震に備え、施設設備の充実における優先順位を変更し、教室棟など稼働率の高い建物の耐震診断を行い、その対応に取り組みました。今後も継続して取り組んでいきます。

学生支援においては、社会環境の変化や全入時代に入り、多様化する学生への対応が求められるなか、懸案であったキャンパス・ソーシャルワーカーを配置し適切な対応を行う体制が整いました。学生が気軽に相談できる窓口「なんでも相談室」を設置し、さらに内容の充実に向けて検討を進めています。

1. 学生支援

(1) 学習支援

①推薦入試合格者入学前準備講座開催

②キャリアアップ教育奨励事業

「高橋賞」 各学部 1 名ずつ人物・学力優秀者 4 名

「学部長賞」 各学部学科から成績優秀者 15 名

「丸山賞」 課外活動での優秀者 団体 3 サークル、個人 16 名

「丸山賞特別賞」 課外活動での優秀者 2 名

「日本介護福祉士養成施設協会会長表彰」 1 名

「日本社会福祉士養成校協会表彰」 1 名

「日本精神保健福祉士養成校協会表彰」 1名

「全国保育士養成協議会会長表彰」 1名

③学生懸賞論文佳作9編表彰

(2) 学生生活支援

学生支援制度として、日本学生支援機構などの公的奨学金はもとより、同窓会志文会奨学金など本学独自の奨学金制度があり、経済困窮者への援助、国際交流や外国人留学生への援助など、対象者は在学生全体の4割に及んでいます。

①特待生制度

学業に専念できる環境を提供するために新入生特待生制度と在学生特待生制度を見直し、学生の学習意欲と経済的負担軽減に対応しながら学生の可能性を育てています。

②留学支援

私費外国人留学生授業料減免、留学や派遣聴講生への支援を行っています。

③同窓会志文会との連携

- ・課外活動奨励金授与（6個人・15団体）
- ・海外留学援助
- ・奨学金援助

(3) スポーツ奨励

スポーツ奨励金を9団体・9個人に交付しました。

(4) 就職支援

就職先の確保や就職状況を改善するため、低年次からのキャリア教育を行うなど総合的な支援策を提案し、就職とキャリア両面における学生への支援の充実を図っています。その結果、就職支援対策の効果がみられ、最終的な就職決定率は昨年比4%増の87%となりました。継続して工夫を重ねて就職課を中心に各学部、事務局関連部署との連携を強化し、大学をあげて就職支援に取り組んでいきます。

①熊学求人システムの導入によるパソコンや携帯メールでの連絡、就職情報の閲覧を可能にし、利便性を向上

②学生就職アドバイザー活動塾開催

③熊本県経営者協会と共同で就職支援講座「しごと塾」開講

④学内合同会社説明会開催

⑤採用企業の開拓のため専門スタッフ（2名）の配置

2. 国際交流－国際交流関連事業の展開－

①第22回外国人留学生弁論大会開催

②外国語学部英米学科 カナダ・ビクトリア大学で「長期海外研修」、「海外インターンシップ」実施

③社会福祉学部 韓国順天郷大学校で社会事情研修実施

④学生自治会との学生間交流 韓国大田大学校学生代表団来学

⑤日韓グローバル・インターンシップ・プログラムの受入れ

⑥外国語学部英米学科生と異文化交流 アメリカ・ベセル大学学生研修団来学

3. 大学教育・研究の多様化

(1) 韓国・全南大学校と国際学術交流研究報告会開催

(2) 六大学包括的連携協定締結（北星学園大学、日本福祉大学、広島修道大学、松山大学、沖縄国際大学）

- (3) 平成 24 年度科学研究助成事業 新規 6 件採択
- (4) 平成 24 年度熊本学園大学学術研究助成 1 グループ、2 個人採択
- (5) 学生・教職員意見交換会「しゃべり場」開催
- (6) 文部科学省大学間連携共同教育推進事業「減災型地域社会のリーダー養成プログラム」採択
-4 大学連携プログラム（熊本大学、熊本県立大学、熊本保健科学大学）
- (7) 学翔学会ディスカッション実施 授業環境改善に向けて学生教職員と意見交換
- (8) 差別と人件に関する講演会開催
- (9) 六大学職員交流研修会開催
- (10) 全国学会開催 日本地域福祉学会全国大会

4. 入試広報対策

近年の厳しい入試状況に鑑み、受験者・入学者の安定的確保のため、以下の通り実施しました。

- (1) オープンキャンパス開催
受験生の進路希望に対応できるように、大学や学生生活について個別相談に応じ、学部学科紹介、小論文講座等、受験生のニーズにあう「オープンキャンパス」を 3 回開催しました。
- (2) 進学懇談会開催
本学独自の進学懇談会を、福岡県から沖縄県までの 8 会場、県内の 7 ブロックで開催しました。
- (3) 高大連携事業開催
 - ① 商学部と熊本商業高校「大学訪問・体験学習プログラム」実施
 - ② 大津高校・翔陽高校との大学体験学習実施
- (4) 合同進学説明会
各新聞社や各県教育委員会が主催・後援し、九州地区の各県主要都市や地方都市で開催される、教員・保護者・生徒対象の合同進学説明会へ参加しました。
- (5) 出張講義（出前講義）
熊本県内を中心に、高校の要望に応じて高校の教室内で模擬授業を実施しました。
- (6) 高校内進学ガイダンス
九州県内の実績高校中心に高校内で開催される進学ガイダンスへの案内があり、積極的に参加しました。
- (7) 大学訪問受入
熊本県内を中心に、高等学校から本学を訪問していただき、大学紹介・施設見学・模擬授業などを実施し積極的に対応しています。また、県外の高等学校や P T A などの訪問もあり、十分な情報やサービスの提供を行っています。
- (8) 合格者への対応
合格者に対して個別に入学へのメッセージを郵送し、入学者の確保に努めました。
- (9) 熊本県下高校を対象に創立 70 周年記念講演会及び懇談会の懇談会開催

5. 地域社会との連携

- (1) 熊本学園大学公開講座
 - ① 春期公開講座開催
 - ② 秋期公開講座開催

- (2) 公開講座第20期「DOがくもん」－熊本日日新聞社との共催－
- (3) 水俣学研究センター市民向け公開講座および公開セミナー開催
 - ①第9期公開講座開催 水俣市公民館
 - ②第17～19回公開セミナー開催
 - ③第2回水俣学若手研究セミナー開催 水俣学現地研究センター
 - ④公開シンポジウム開催
- (4) 熊本市ひとり親家庭児童訪問援助事業実施
- (5) 熊本市との共催・肥後創生塾開催
- (6) 人吉市との包括的連携事業・公開講座「ひとよし 花まる学園大学」5講座開催
- (7) 包括的連携協定締結（目的：地域活性化に向けた調査研究、人材育成など）
12月13日 菊陽町、2月26日 山鹿市
- (8) 教員免許更新講習開催
- (9) 産業経営研究所
 - ①シンポジウム開催
 - ②研究報告会開催
- (10) 海外事情研究所
 - ①研究会開催
- (11) 社会福祉研究所
 - ①福祉環境学フォーラム開催（水俣学研究センター・社会関係学会・福祉環境学科共催）
 - ②定例研究会開催
 - ③シンポジウム開催

6. その他の事業

- (1) 九州沖縄各県8会場で大学懇談会開催
- (2) 大学公式ホームページリニューアル
- (3) 北古賀勝幸前理事長 旭日中綬章受章
- (4) 原田正純追悼展「原田正純追悼展水俣学への軌跡」開催

7. 施設設備の充実

- (1) 7号館1階トイレ改修工事
- (2) 7号館給水管補修工事
- (3) 4・7号館耐震診断経費及び耐震改修工事等計画経費
- (4) 11号館壁面補修工事等
- (5) PCB廃棄物処理費
- (6) 高圧気開閉器高圧ケーブル更新工事

《熊本学園大学付属高等学校》

本校は、熊本学園の建学の精神である「師弟同行」、「自由闊達」、「全学一家」のもと、「英知」、「気品」、「剛気」の生徒の誓いを教育指針として掲げ、52年の歴史を歩んできました。現在も生徒達は伸び伸びとした雰囲気の中で教育を受け、日々の学校生活を充実させています。この校風は、広く熊本県民にも知られており、本校の大きな魅力の一つとなっています。

また、「学業と部活動の両立を重視する学校」、「知・徳・体のバランスのとれた生徒を育む学校」、そして、「明るく健康な学校」のイメージが多くの受験生・保護者に支持されています。国公立大学への進学率も年々上昇しており、部活動においても県大会だけでなく、全国大会でも数多くの入賞を果たしています。

1. 生徒募集

平成24年度は、定員360名に対して385名が入学しました。

本校の広報活動における最大のイベントである「オープンキャンパス」は、17年前に県内の高校で初めて実施され、以降、毎年夏に行われているイベントです。模擬授業や生徒体験談など、参加者が満足できるような様々なプログラムを、毎年教職員・生徒が共に企画し、実施しています。平成24年度も2,500名を超える中学生・保護者の参加があり、盛況のうちに終わることができました。

また、塾の先生方を対象とした「指導者対象説明会」を例年通り開催したほか、中学生と保護者を対象とした入試説明会では、受験生向けには、入試問題をアレンジした模擬問題を実際に解いたあと、担当の先生による解説などを行い、保護者向けには、過去の入試データや卒業生の進学データの説明、質疑応答などを行いました。

2. 施設設備の拡充など

(1) 1棟2階教室の冷暖房設備の入替工事を行いました。(これはCO2排出削減対策の一環でもあります)

(2) 高校体育館の改修工事を行いました。

3. 教学(特色ある教育)・進学関係

(1) 1年生は入学式前の4月6～8日の日程で、大分県日田市中津江の鯛生スポーツセンターでスプリングキャンプを実施しました。このキャンプは、「付属高校生」になることを自覚できるよう、高校生活の心構えの確立、集団生活の基本的ルールの習得、生徒間・生徒教師の親睦及び信頼関係を深めることを目的に毎年実施しています。

(2) 数学では習熟度別の授業編成を行い、基礎部分は全クラス共通、問題演習は難易度の異なる問題を取り扱い、学力向上を目指したきめ細かな学習指導を行っています。

(3) 放課後は19時30分まで自習室を開放していますが、多くの生徒たちが活用し勉強に励んでいます。また、日頃から各教科教諭が個別に添削指導を行っているほか、年2回6月と8月に自学自習会を実施し、学習習慣の定着を図っています。

(4) 平常授業以外にも早朝及び放課後、夏休み・冬休み・春休みにも特別演習を実施しました。3年生では90分の放課後特演、理系選択者への特別講座、センター試験直前対策や国公立2次対策など様々な特別演習プログラムを実施し、多くの生徒が受講しました。

(5) 1・2年生対象に進学指導の一環として、学部学科研究会を実施しました。本校卒業生を招き、進学した大学の志望理由、在学時の学習方法、大学での勉強内容等の話を聞き、志望校合格に向け、アドバイスを受けることができました。

(6) 本校教育の成果は本年度も進学実績に顕著に現れています。京都大学、九州大学、熊本大学など国公立大学に計126名(内現役生92名)が合格しました。また、私立大学でも熊本学園大学に151名が合格、56名が入学したのをはじめ、全国の私立大学にのべ567名が合格しました。

その他、各種専門学校・高看へ 25 名が合格しました。

4. 部活動関係

- (1) 体育系：第 30 回全国高等学校弓道選抜大会において男子団体が 3 位に入賞しました。平成 24 年度熊本県総合体育大会では、2 種目 3 競技で団体優勝しました。さらに、全国高等学校総合体育大会ボート競技「女子クォドルプル」の種目においては、全国優勝二連覇の快挙を成し遂げました。また、ボート部 3 年生女子の中尾真琳さんが世界ジュニア選手権とアジア選手権に出場しました。
- (2) 文化系：「平成 24 年度九州高等学校生徒理科研究発表大会」に出場し、3 年生の 3 名が優良賞を受賞しました。

5. 国際交流の推進

- (1) 恒例のイベントとして、10 月、ニュージーランドより姉妹校 Kingsway School の生徒たちが来校し、歓迎式典と異文化体験交流を行いました。また、6 月 24 日、日本に興味のあるアメリカオレゴン州からの生徒（中学生・高校生）を受け入れ、授業と一緒に取り組んだり、異文化体験交流を行いました。
- (2) 夏休みを利用して本校生 16 名がニュージーランドでの語学及び異文化体験研修（2 週間、Kingsway School 訪問を含む）を行いました。

《熊本学園大学付属中学校》

現代社会は、グローバル化の進展や価値観の多様化、長い経済不況と様々な問題を抱え、先の読めない時代になっています。今の子ども達は、このような厳しい社会をどのように生きていくべきか、将来の人間像を描きにくいのではないのでしょうか。私たちは、子ども達に「どんな時代であっても力強く豊かに生きてほしい」、「自分らしい道を見つけ、どんなことがあってもくじけず突き進んでほしい」と願っています。

本校では、平日7時限・土曜4時限の週6日制で十分な授業時間を確保し、「ゆっくり・じっくり・確実に」基礎学力の定着を図っています。また、総合的な人間力を高めるための「深学科プログラム」を導入し、多くの体験を踏まえた問題解決学習を通して「生きる力」を高めています。思いやりの心を持った豊かな「人間力」と、高い知性を身につけるための確かな「学力」、この2つの「力」を6年間という時間の中でじっくり、しっかりと育み、魅力ある中高一貫校を目指していきたいと思います。

1. 生徒募集

平成24年度は、定員80名に対して、志願者数245名、入学者数が56名となりました。

広報活動最大のイベントとして「中学校オープンキャンパス」を実施しました。14号館高橋守雄記念ホールで行われた説明会では、放送部や生徒会を中心とした多くの本校生の協力のもと、より学校の雰囲気伝えることができました。校舎見学においても多くの本校生の協力を得て、校内の特徴を取り上げたクイズラリーやアトリウムのピアノを使用しての演奏会なども行いました。実験やアート体験、コースター作りなどの授業体験や生徒による学校生活や部活動のレポートなどのプログラムも企画、実施されました。図書室やパソコン室も開放し、参加者は付属中学校をより身近に感じることができるようになりました。在校生保護者による、保護者のための説明会も同時に実施され、在校生とその保護者の生の声を伝えるよい機会となりました。平成24年度は150名を超える小学生・保護者の参加がありました。

また、塾の先生方を対象にした「指導者対象中学校説明会」を平成24年度も開催しました。受験生対象の入試説明会では各教科の取り組みについて説明し、過去の入試問題を利用した試験問題の出題のねらいとアドバイスを行うプログラムを実施しました。その他、入試結果の分析や本校生による合格体験談により、入学後の中学校生活についても伝えることができ、小学生・保護者ともに満足していただける内容となりました。

2. 教学関係(特色ある教育ほか)

(1) 平常授業以外にも、長期休業中には自学自習会を実施し、学習習慣の定着を図っています。

また、夏期休業中には、国語・数学・英語の各教科においてはそれぞれ3つのクラスを設定し、生徒各自の習熟度に合わせて選択することが可能な特別演習を実施し、多くの生徒が受講しました。

(2) 学びの意欲や問題に立ち向かっていく力を養い、仲間との共同作業や、学び得たものの共有化といったプロセスを通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を培うため、問題解決学習である深学科プログラムに取り組んでいます。

1・2年生ともに学内・学外から多くの講師を招き、それぞれの課題に沿った講演会を開催し、自ら学ぶ力の育成に努めています。

1年生：「自然・環境」をテーマに深学科プログラムの学習を進めました。前期は身近な自然、環境についての調査を実施し、夏期休業期間には天草市御所浦町で宿泊研修を行いました。後期に入ってから、熊本学園大学社会福祉学部の藤本延啓先生にも御指導いただきながら水俣学の学習を進め、1年次深学科プログラムの総括として年度末に紫想祭(文化発表会)で学習内容の報告を行いました。

2年生：「福祉」と「平和」をテーマに学習を進めました。「福祉」では、誰もがゆたかに幸せに暮らせる社会の提案として論文を作成しました。福祉の考え方の学習では、熊本学園大学社会福祉学部の小川全夫先生の講義を実施したり、論文の書き方では、熊日創

立 70 周年記念懸賞論文で入選した学生の体験談講話などを実施しました。「平和」学習では、広島歴史、戦争や原爆の悲惨さを学習するために広島研修を実施しました。広島ピースボランティアの方々の協力を得て、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学、平和公園の慰霊碑巡りを行ったり、被爆者の体験談を聞いたりしました。実際に現地に行くことで、戦争や原爆の悲惨さを肌で感じ、平和の尊さへの想いをよりいっそう深めることができました。

3. 部活動関係

(1) 体育系：平成 24 年度中学校体育大会において、体操部と水泳部が県大会に出場し、体操部 2 年男子 2 名が九州大会に出場しました。熊本県中学生体操競技新人大会においては、女子団体総合、男子個人においては 2 位、女子個人では 6 位入賞の成績を収めました。第 9 回全九州小・中学生ボート大会では男子ダブルスカルとクオドルプルで優勝、女子ダブルスカルで 2 位となりました。

(2) 文化系：合唱部が第 66 回九州合唱コンクール熊本県予選に高校生の部の一員として参加し、金賞を受賞しました。

(3) 部活動以外の活動：2 年男子生徒が昨年に続き、第 3 回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan に出場し全国大会特別コースジュニア特級Ⅱ-C 部門において銀賞を受賞、第 45 回熊日学生音楽コンクールにおいて熊本県賞ピアノ部門中学生の部で最優秀賞を獲得し、特別賞として熊本県賞を受賞しました。

第 54 回熊本市中学校生徒会連絡協議会弁論大会では 1 年女子生徒が優良賞を受賞、熊本ロータリークラブ主催中学生弁論大会では 2 年女子生徒が優秀賞を獲得しました。また、第 6 回「わたしのまちの〇と×・熊本」環境フォトコンテストでは、団体優秀賞を受賞しました。

4. 国際交流の推進

(1) 10 月 3 日、ニュージーランドの姉妹校 Kingsway School より日本に興味のある生徒（中学生・高校生）を受け入れ、アトリウムにてニュージーランドの伝統の踊りを見せてもらうなどの異文化体験交流を行いました。

《熊本学園大学付属敬愛幼稚園》

1. 幼稚園運営

熊本学園大学付属敬愛幼稚園は、3歳児40名・4歳児50名・5歳児50名6クラス合計140名定員です。その他在園児に対しては預かり保育を実施し特別支援教育にも対応しています。また子育て支援事業としてひよこルーム（2歳児、週3日）を開設しています。

平成24年度は3月に移転新築した新園舎での保育元年でした。平成24年5月26日（土）学校法人熊本学園創立70周年記念式典の一環として、太陽光発電点灯式と併せて、90名の出席を得て新園舎落成式を行いました。平成25年3月11日（月）に1年点検を実施し大きな瑕疵がないことを確認しました。落ち着いた園舎と遊び心に満たされた園庭が一体となった絶好の空間となっています。鉄棒など遊具の購入、砂場や築山の補修等園庭の整備充実も図りました。

園運営の土台となる在園児数は、平成25年3月1日付では3歳児42名・4歳児53名・5歳児50名合計145名と定員を超えて在籍しました。少子化で定員割れする私立幼稚園が増えている中、安定的に定員確保できたのは、これまでの敬愛の保育に対する信頼に加え、新園舎が完成し教育環境が充実したこと、ホームページの改定など園児募集対策が効果を上げたためと考えられます。

財政面では、納付金を月額1,500円値上げ（20,000円から21,500円）し収入が安定しました。減価償却額が増加し借入金の返済も開始しましたが、太陽光発電等により光熱費が節約されました。

2. 保育内容

本園は「愛する子ども愛される子ども」の理念のもと、「遊び中心の主体性を育てる保育」「（通園バスを使わないで）保護者とともに子育てする幼稚園」を特徴とし、「よく遊ぶ子」「友だちに優しい子」「集中力のある子」を育てるために日常の保育を展開してきました。

平成24年度の最大の保育目標は子どもも保育者も不慣れな新園舎での安心安全な保育でした。職員全員で園舎園庭のヒヤリハット点検を行い、安全な通園路を設定し、保護者に周知徹底したことで、1年間大きな事故もなく過ごすことが出来ました。また園舎移転により行事の変更や工夫が求められましたが、けいあい祭りを始め保護者の協力により新しい方法と体制が整いました。

3. その他の保育事業

その他平成24年度は以下のようなことに取り組みました。

第一に特別支援教育の実施。合計8人の発達障害の子どもを受け入れ4人の補助教員を配置して対応しました。クラス担任と補助教員が綿密に打ち合わせ、関係機関との連携を心がけました。

第二に預かり保育（いちごクラス）の実施。保育終了後16時30分までの預かり保育を実施し、1日平均15～16人を受け入れました。異年齢でのあそびの交流の場となりました。

第三に子育て支援として2歳児保育（ひよこルーム）の実施。原則として月水金の隔日で半日保育を行い、15名の子どもを受け入れ、新入園にもつながりました。

第四に大学との連携。子ども家庭福祉学科の実習生の受け入れ指導に加え、運動会・けいあい祭りへの学生のお手伝い、年少クラス「1・2組応援隊」として1学期の午前中毎日保育ボランティアとして協力してもらい、連携協力も深まりました。

その他、3月感染性腸炎が発生し対応に追われましたが、職員全体での意思確認等的確な初期対応したこと、保護者への迅速な情報提供により混乱を防いだこと、園医や保健所など専門機関と連携して対応したことなど今後の教訓とすることが出来ました。

Ⅲ. 財務（決算の概要）

消費収支決算書は民間企業の損益計算書に相当するもので、学校法人会計では当該年度の消費収入と消費支出の均衡の状態を示すものです。資金収支決算書は当該年度の教育研究活動に対するすべての資金の収入、支出の内容を明らかにし、合わせて支払資金の顛末を明らかにするものです。貸借対照表は当該年度末の資産及び負債の状況を表すものです。

1. 平成 24 年度決算の概要

(1) 消費収支決算書

消費収入の部は、学生生徒納付金等で帰属収入合計額は 75 億 4,779 万円になりました。これから 7 号館トイレ改修、7 号館給水管補修、高校エアコン設備更新等、第 1 号基本金の基本金組入額 3 億 2,997 万円を差し引いた消費収入の部合計額は 72 億 1,782 万円になりました。消費支出の部は、人件費、教育研究経費等で 73 億 5,443 万円になりました。消費収入の部合計額から消費支出の部合計額を差し引いた当年度消費収支差額は 1 億 3,660 万円の支出超過となり、これに前年度消費支出超過額を合計した次年度繰越消費支出超過額は 80 億 6,273 万円になりました。

主要な収支比率は人件費率が 63.8%で前年度より 1.4%増加、消費支出比率は 97.4%で前年度より 1.5%減少しました。

(2) 資金収支決算書

収入の部は、学生生徒等納付金収入 58 億 4,400 万円や前年度繰越支払資金 43 億 2,014 万円等で収入の部合計額は 124 億 4,409 万円になりました。支出の部は、人件費 47 億 5,387 万円と教育研究経費 13 億 9,051 万円を含め、支出小計額は 79 億 7,250 万円になりました。収入の部合計額から支出小計額を差し引いた次年度繰越支払資金は 44 億 7,159 万円になりました。

(3) 貸借対照表

資産の部の有形固定資産は、減価償却等により 4 億 3,920 万円減少、その他の固定資産は、施設設備引当特定預金等の減少により 1 億 1,753 万円の減少、流動資産は、現金預金と未収入金等の増加により 3 億 1,964 万円増額、資産の部は、2 億 3,709 万円減少し、327 億 1,001 万円になりました。

負債の部では、長期借入金に短期借入金に振り替わりましたので、長期借入金が減少し短期借入金が増加しました。また、未払金が減少しましたので、負債総額では、4 億 3,045 万円減少し、44 億 5,632 万円になりました。

基本金の部では、第 1 号基本金への組入額が 3 億 2,997 万円増加し、基本金総額は 363 億 1,642 万円になりました。

資産総額 327 億 1,001 万円から負債総額 44 億 5,632 万円を差し引いた「正味財産」は、282 億 5,369 万円となり、前年度より 1 億 9,336 万円の増加になりました。

2. 経年比較

(1) 消費収支決算書

(単位：千円)

消費収入の部	20年度	21年度	22年度	23年度	本年度
学生生徒等納付金	6,155,563	6,096,634	6,210,070	6,082,052	5,843,998
手数料	129,042	132,300	120,691	100,679	90,855
寄付金	57,683	114,283	46,410	54,924	117,520
補助金	873,329	991,375	902,526	926,464	944,269
資産運用収入	131,928	135,686	135,912	123,742	112,179
資産売却差額	0	8,634	0	0	0
事業収入	121,263	110,693	108,209	106,120	95,227
雑収入	205,583	309,093	354,532	176,757	343,742
帰属収入合計	7,674,391	7,898,698	7,878,350	7,570,738	7,547,790
基本金組入額合計	△ 580,213	△ 556,425	△ 878,264	△ 479,896	△ 329,966
消費収入の部合計	7,094,178	7,342,273	7,000,086	7,090,842	7,217,824

消費支出の部	20年度	21年度	22年度	23年度	本年度
人件費	4,614,266	4,677,814	4,651,018	4,720,434	4,814,419
教育研究経費	2,203,195	2,150,057	2,056,603	2,086,988	1,889,497
管理経費	673,676	637,711	665,564	659,475	628,877
借入金等利息	28,902	26,551	21,434	15,304	11,605
資産処分差額	20,553	5,496	2,403	1,877	9,068
徴収不能額	749	98	0	465	963
消費支出の部合計	7,541,341	7,497,727	7,397,023	7,484,543	7,354,428
当年度消費収支差額	△ 447,163	△ 155,454	△ 396,937	△ 393,701	△ 136,605
前年度繰越消費収支差額	△ 6,532,871	△ 6,980,034	△ 7,135,488	△ 7,532,425	△ 7,926,126
次年度繰越消費収支差額	△ 6,980,034	△ 7,135,488	△ 7,532,425	△ 7,926,126	△ 8,062,730

(2) 資金収支決算書

(単位：千円)

収入の部	20年度	21年度	22年度	23年度	本年度
学生生徒等納付金収入	6,155,563	6,096,634	6,210,070	6,082,052	5,843,998
手数料収入	129,042	132,300	120,691	100,679	90,855
寄付金収入	52,187	108,621	42,417	50,684	116,132
補助金収入	873,329	991,375	902,526	926,464	944,269
資産運用収入	131,928	135,686	135,912	123,742	112,179
資産売却収入	0	308,634	0	0	7,500
事業収入	121,263	110,693	108,209	106,120	95,227
雑収入	204,753	250,130	224,621	150,688	342,906
借入金等収入	750,000	450,000	1,350,000	670,000	50,000
前受金収入	1,154,202	1,228,300	1,039,557	944,847	912,481
その他の収入	770,883	915,558	938,402	611,428	905,099
資金収入調整勘定	△ 1,296,359	△ 1,383,084	△ 1,450,910	△ 1,219,340	△ 1,296,689
前年度繰越支払資金	3,567,998	3,471,323	4,624,703	4,213,136	4,320,136
収入の部合計	12,614,787	12,816,170	14,246,200	12,760,500	12,444,092

支出の部	20年度	21年度	22年度	23年度	本年度
人件費支出	4,666,981	4,751,601	4,677,635	4,578,405	4,753,866
教育研究経費支出	1,600,907	1,582,823	1,537,173	1,566,107	1,390,511
管理経費支出	561,326	532,080	559,431	554,290	526,879
借入金等利息支出	28,902	26,551	21,434	15,304	11,605
借入金等返済支出	1,121,870	709,990	1,249,990	699,990	260,000
施設関係支出	51,832	133,091	684,179	333,742	32,274
設備関係支出	288,765	218,165	279,367	174,533	143,402
資産運用支出	802,983	289,829	991,438	676,107	601,279
その他の支出	137,866	131,441	133,803	127,770	359,605
資金支出調整勘定	△ 117,968	△ 184,105	△ 101,388	△ 285,884	△ 106,923
次年度繰越支払資金	3,471,323	4,624,703	4,213,136	4,320,136	4,471,595
支出部の合計	12,614,787	12,816,170	14,246,200	12,760,500	12,444,092

(3) 貸借対照表

(単位：千円)

	20年度	21年度	22年度	23年度	本年度
固定資産	28,381,648	27,391,502	28,193,203	28,402,093	27,845,365
流動資産	3,711,648	4,903,401	4,476,285	4,545,006	4,864,642
資産の部合計	32,093,296	32,294,903	32,669,488	32,947,098	32,710,007
固定負債	2,921,896	2,091,347	2,703,547	3,244,471	2,733,396
流動負債	2,079,568	2,710,754	1,991,811	1,642,302	1,722,925
負債の部合計	5,001,464	4,802,101	4,695,358	4,886,774	4,456,321
基本金の部合計	34,071,866	34,628,291	35,506,554	35,986,450	36,316,417
消費収支差額の部合計	△ 6,980,034	△ 7,135,488	△ 7,532,425	△ 7,926,126	△ 8,062,730
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	32,093,296	32,294,903	32,669,488	32,947,098	32,710,007

以上、平成 24 年度における事業報告をいたしました。熊本学園創立 70 周年を契機に、建学の精神のもと各設置校の教育方針に沿いながら、地域に根差した個性的私学教育の実現に向けて尽力してまいります。学園関係の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。